

血圧上昇抑制作用を有する食品(その2)

しいたけおよびサフラワー油の効果
 国立栄研 健康増進 辻悦子

目的 高血圧は動脈硬化性疾患発症の危険因子の一つである。高血圧の基礎的療法としては薬物療法があるが、副作用の点などからむしろ食事療法が望ましい。そこで高血圧の予防や進行防止を目的として、遺伝的に高血圧素因を持つ高血圧自然発症ラット(SHR)を用い、栄養生理学的効果としての血圧上昇抑制作用を有する食品の検討を行った。

方法 各実験とも雄SHRを用い、対照群の飼料は市販粉末飼料とした。実験1) 生後10週令のラットを1群10頭ずつ3群に分け、しいたけ菌糸体水抽出原末1%または、バガスを培地とした菌糸体(含バガス)5%を対照飼料に添加した2実験飼料群および対照群とした。実験飼料投与は3週間とし、後、全群を対照飼料で2週間飼育した。実験2) 生後37週令の時、1群7頭ずつ3群を設け、実験飼料群としては対照飼料にサフラワー油またはラードを35~30%添加した2群とした。3週間後、全群を対照飼料で2週間飼育した。実験3) 生後17週令の時、1群10頭ずつの3群とし、実験飼料としては実験2同様油脂を30%添加した。2週間飼育後、実験飼料群のうち各群5頭ずつを採血解剖し、残り5頭ずつは添加する油脂の種類を相互に切り換えて2週間飼育した。いずれも毎週1回体重計測の他、プレナス毛式ラット血圧計を用いて血圧を測定した。

結果 既に才33回本学会総会(1981)にて、しいたけ中に血圧上昇抑制作用を有する成分があることを報告したが、しいたけ子実体のみならず、菌糸体にも同じ効果が認められた(実験1)。実験2,3より、サフラワー油の著しい降圧効果も認められた。これらの結果から、高血圧の管理や予防のために、適切な食品による栄養指導の有用性が示唆される。